未来に伝える ひょうごの
無形民俗文化財

兵庫県教育委員会　文化財課

無形民俗文化財の登録制度のご案内

兵庫県では、令和３年度より国・県・市町の指定などを受けていない無形民俗文化財のうち、

県内で行われており、
昭和初期以前から伝えられている 、
地域の生活文化を理解する上で大切な祭り・行事
を「兵庫県登録無形民俗文化財」として登録し、保護を図っていきます。

登録されると、
公開事業や表彰、各種助成等に優先的に推薦します。
記録作成や用具等の整備に要する経費の一部を、予算の範囲内で補助することができます。

市町の文化財主管課からの意見に基づき、県教委が県文化財保護審議会の意見を踏まえ登録します。

登録に関するお問い合わせは、市町の文化財主管課までお願いします。

兵庫県の各地で伝承されている祭り・行事

兵庫県は、昔の国名で播磨、但馬、淡路の３ヶ国と摂津、丹波国の一部をあわせた旧５ヶ国からなっており、異なる風土をもつことが特徴です。この多様な個性を持つ地域に根ざし育まれた祭り・行事は、消滅あるいは変容したものもありますが、現在もなお数多く継承されています。

このことが兵庫県の祭り・行事の特徴といえます。

県内各地区の祭りや行事の概要を、令和元年度に刊行した「兵庫県の祭り・行事調査」にとりまとめました。各地区の概要は兵庫県教育委員会のHPや、下記に掲載していますQRコードからご覧いただけます。

○総論・神戸・阪神地区　○播磨地区

○但馬地区　○丹波地区

○淡路地区

国指定 国 / 国記録選択 選 / 兵庫県指定 県 / 市町指定 市 町

●保持団体等 ●公開日 ●所在地 ●中心となる伝承地(神社、寺院、施設等)

1 東大寺神社の鉢舞 国
●東大寺神社鉢舞保存会 ●毎年1月14日
●神戸市須磨区東学松ヶ原551 ●東大寺神社

毎年1月14日、本殿前の拝殿で、あこだれ舞、蘭弧ハ・鉢舞・三番叟・父鉢の4部構成からなる、装束則度のもとで伝来されてきたため、古式を保く厳しかり、興趣である。用ハ5行4曲は、江戸時代初期のものと考えられ、氏子の間では鉢舞体として崇められている。

2 上鴨川住吉神社神事舞 国
●住吉神社神事舞調保存会 ●毎年10月第1土・日曜日
●加東市社上鴨川577 ●上鴨川住吉神社

中世京都の朱礼で演じられた王の舞、獅子舞、田楽、猿楽を源泉の変奏?（姫笛・若男?）が演じており、京系による自治的結束を持った中世都村の祭礼形態を保くと伝えている。現在の能楽（猿楽）大成以前の猿楽の古い形式の「猿舞」を今に伝えており、全国的にも貴重である。

3 東光寺の鬼会 国
●東光寺追儺式及び田遊び保存会 ●毎年1月8日 ●加西市
●上万願寺町 薬師堂

五穀豊穣を祈る伝統行事「田遊び」と鬼追い行事の中で行われるもの。開闔唱一念である。民俗行事の地域的特色を強く示す。

4 坂越の船祭 国
●坂越の船渡御保存会 ●毎年10月第2日曜日及びその前日
●赤穂市坂越1299 ●坂越 大避神社

曳伝馬船、獅子船、頭人船、楽船、荒神船、歌船など古風な形式を保った船舶十数隻が船行列を行い、坂越湾内の生島（いきしま）にある御旅所まで往復する。海神たちによる勇ましい模擬（ごっこ）遊び的な行事の進行だけでと優れ、中四国の多くの祭礼に影響を与えており、我が国における船祭りの典型的なものの一つである。

5 因幡・但馬の獅鼻獅子舞 国
●因馬地域獅鼻獅子保存会 ●各地区による ●新温泉町・香美町
●伊都岐神社他

鳥取県東部から兵庫県の新温泉町・香美町に伝承されている獅子舞の一つ。獅子頭が獅鼻に似ていることから「獅鼻獅子」と呼ばれている。

6 但馬久谷の昌蒲綱引き 国
●久谷昌蒲綱保存会 ●毎年6月5日 ●美方郡新温泉町久谷
●久谷地区

幾年の節句に屋根におかれた菖蒲・よもぎ・すすきを編んで綱をうけきう。年占いや地域の発展を考えて行われる。

7 淡路人形浄瑠璃 国
●淡路浄瑠璃保存会 ●毎年2月第2日曜日
●南あわじ市福良字1528-1他元 ●淡路人形座

約500年前、西宮戎神社に生まれた傀儡師左大夫が、全国を巡業中三原町の日三条村に住んだことれ、3人遣いの人形芝居として各地を巡業発展した。最盛期には多くの演元があり、各地に淡路人形を伝播させた。三重県や近畿が伝播ったとしてあるほか、愛媛や人情を語る長編の芝居もある。登場人物の台詞を大文字語り、三味線は太夫を助け、感情情景を表現する。

8 兵庫県の酒造習俗（昭和43結） 選
●― ●― ●― ●―

兵庫県の酒造習俗は、神戸市東部から西宮市や津名郡に至る。麓と呼ばれる地域に伝承されてきた酒造りに関する習俗である。麓の酒造は17世紀前半に始まるとされ、特に18世紀に入ると蔵の名が用いられるようになり、同時に江戸幕府の特権を有する名酒蔵者の株仲間も結成された。この頃の灘は、上灘、下灘、今津の三郷であったが、酒造業の発展もあり文政11年には上灘が2つに分かれて、いわゆる灘五郷が形成されたさ。この地域で酒造が発展した背景には、良質な酒米を確保できることと、六甲からの水が良質であるうえ、精米に用いる水車の動力として優突できること、市場へ酒類すると海米があることと、さらに河岸から優れた社元を招くことができたことなどがあげられる。

9 灘の酒樽製作技術 選
●灘の酒樽製作技術保存会 ●― ●神戸市 ●―

灘の酒樽製作技術は、兵庫県東部の灘五郷と呼ばれてきた地域において江戸時代以降最盛とされてきた日本酒生産に関連するために用いられてきた酒屋で使用する樽を製作する技術である。製作工程は、大水代節が、少河竹、竹工で、竹工は、竹を割り、竹割り、竹を加工する。竹を割りまする。竹を割りまする。竹を割りまする